



極東開発工業
CSR報告書
2016

0

INDEX・編集方針

INDEX

1	トップメッセージ	P2
2	CSR	P3
3	事業/製品紹介	P4
4	コーポレートガバナンス	P6
5	人権/労働慣行	P7
6	環境への取り組み	P14
7	公正な事業慣行	P21
8	消費者課題	P22
9	コミュニティへの参画	P25
10	統計資料	P30



参考ガイドライン

本報告書は、GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン」、「ISO26000」等を参考に作成しています。

編集方針

極東開発工業（以下、当社）は、2012年度より報告内容を企業の社会的責任に重点をおき「CSR報告書」として発行してきました。持続可能な社会の実現に向けたCSR（企業の社会的責任）の取り組みについてステークホルダーの皆様にご覧いただけるだけ分かりやすく報告するとともに、当社のCSR活動について理解を深めていただくことを目的として、報告書を発行しています。

ステークホルダーの皆様との重要なコミュニケーションツールとして、今後も更なる充実を図り情報を発信していきます。是非、皆様にお読みいただき、忌憚のないご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

【報告範囲】

対象範囲

組織：極東開発工業株式会社

期間：2015年4月1日
～2016年3月31日

発行日：2016年8月31日

お問い合わせ先

極東開発工業株式会社 CSR室

兵庫県西宮市甲子園口6-1-45

TEL: 0798-66-1417

FAX: 0798-65-9330

1

トップメッセージ

皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、1955年の創業以来、「技術と信用を重んじ一致協力して企業の生々発展に努力し広く社会に奉仕する」という経営理念のもと、半世紀以上に亘り、さまざまな製品・サービスを提供し、社会インフラの整備に貢献してまいりました。現在、日本国内では、高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋梁等の社会資本の老朽化への対応、ならびに、将来想定される大規模災害に備えるための防災・減災の強化に対する機運が高まっています。これらの推進には、私たちの製品・サービスは必要不可欠なものであり、その果たすべき社会的な役割は大きなものであると改めて認識しています。

一方で、世界に目を向けますと、インフラの整備が行き届いていない国も多く、私たちの製品が活躍できるフィールドが広がっています。既に中国、インド、そしてインドネシアに事業展開しており、2015年にはタイにも4番目の生産拠点を設立しました。今後は、これらの拠点を含め、KYOKUTOグループ丸となって、各国の様々なニーズにお応えしていきたいと考えています。

新しい中期経営計画 2016-18 ~Value up to the Next~は、世界経済・日本経済が先行き不透明感を増している中でのスタートとなります。前中期経営計画が生産対応や海外展開によって事業規模を拡大してきた3年間とすると、これからの3年間は、市場の変化に柔軟に対応しながら、次の目指す姿に向け、「事業の質の向上」に取り組んでいく大切な期間と定めています。

当中期経営計画における取り組みがこれからの成長を支える強い節目になるよう、また、KYOKUTOグループが皆様から選ばれ続ける企業になるよう、精進してまいりたいと思います。

今後とも、皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



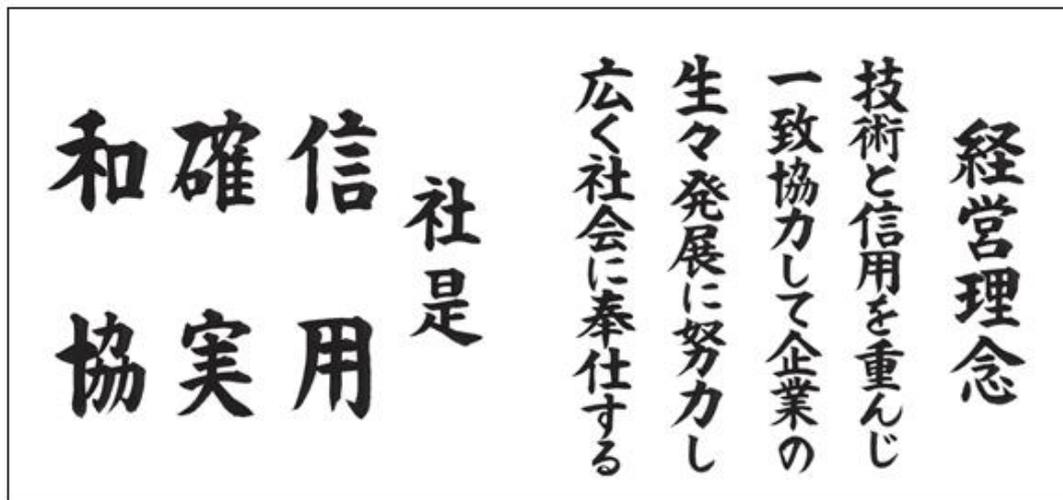
極東開発工業株式会社
代表取締役社長

高橋和也

2 CSR

CSRに対する基本的な考え方

当社は、創業時に掲げた経営理念のもと、長年に亘り培ってきた技術と信頼を軸に、お客様やお取引先様などをはじめステークホルダーの皆様とともに、世の中の発展に向けて、新たな価値を創造し続けていきます。



2003年にCSRポリシーとして、「極東開発工業ビジネス行動規範」を制定し、これをベースに、ステークホルダーとともにスパイラルアップしながら社会の発展に貢献していきたいと考えています。

ビジネス行動規範（抜粋）

企業が効率や利益を追求し競争を行うこと自体は、正常な企業活動です。
しかし、利益の追求、競争が高すぎるあまり、企業活動が社会的正義に
反するものになってはなりません。

極東開発工業の企業活動は、お客様やお取引先をはじめ、株主、地域社会などの
数多くの人々との関係の中で成り立っており、健全な企業活動を通じて、
これらの人々の期待に応える責任があります。

極東開発工業は、企業としての社会的役割、責任を自覚し、
社会とともに成長し、発展し続けます。

3

事業/製品紹介

事業展開について

当社は、豊富なラインナップを揃え日常のあらゆるシーンで活躍する特装車の製造販売を行う特装車事業、業界トップクラスの施工実績を誇るリサイクル施設の建設および施設の運転受託等を行う環境事業、立体駐車装置の製造・販売やコインパーキングの運営を行うパーキング事業の3つの事業を軸として展開しています。日本経済は、円高などによる企業収益の悪化や、個人消費の低迷が続くなど、先行き不透明なまま推移しました。

このような状況下、当社グループは発展的・継続的に成長し、顧客や社会から広く選ばれる企業グループとなるために、中期経営計画 2016-18～Value up to the Next～(平成 28 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)を新たに策定し、「国内収益基盤の強化」、「海外売上の確立」、「M&A・新規事業の推進」、「企業品質の向上」の基本方針のもと、確固たる収益基盤の確立および新たな収益源確保のための施策を着実に実行し、これらに対し、経営資源を積極的に投入します。

特装車事業について

国内の特装車市場は、物流関連車両の需要に支えられ堅調に推移しました。当社グループは重点拡販製品であるテールゲートリフタ、トレーラ、ごみ収集車をはじめとした製品の受注確保を図り、生産工場において自動化の推進による合理化を進めました。研究開発も推進し、2015年7月には中型車の機動力に大型車並みの最大吐出能力を実現したコンクリートポンプ車「ピストンクリート® PY90-17」を、10月には吊上げ能力および作業スピードを大幅に向上させた脱着ボデー車「ハイパースイング・フックロール®」を、2016年1月には動力源（パワーユニット）を本体に内蔵しスマートな外観を実現した後部格納式テールゲートリフタ「パワーゲート® GⅡ1000/GⅢ1000」を発売するなど新製品も積極的に市場投入しました。

海外は、タイ王国において当社と連結子会社の日本トレクス株式会社および現地企業2社の合弁による、バンポデーおよびダンブトラック等の生産・販売拠点となるタイ工場(Trex Thairung Co., Ltd.：プルワックデー郡)が2015年10月より稼動しました。今後は当社グループの業績に早期に寄与できるよう進めてまいります。



『コンクリートポンプ車 ピストンクリート® PY90-17』

環境事業について

プラント建設では新規物件の受注活動に努め、2015年7月に館林衛生施設組合、2016年3月に山口県長門市、茨城県水戸市などから4件の建設工事および1件の運営受託事業を受注しました。また、既存の施設におけるメンテナンス・運転受託および受注済物件の建設工事にも注力しました。

2015年5月にコーンズ・アンド・カンパニー・リミテッドと技術提携を行ったバイオガスプラントでは、技術導入および市場動向の調査と並行して同社と共同でプラントの建設工事を進めました。



『破碎機(極東・トレマッシュ®)』



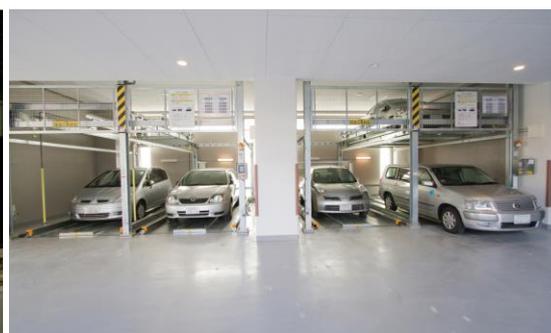
『リサイクルプラザ(草加市)』

パーキング事業について

立体駐車装置については、厳しい市場環境の中、ストックビジネスとしてリニューアルおよびメンテナンスの受注に注力しました。コインパーキング事業は採算性の高い事業地の選別およびコストダウンにより利益を確保しました。



『コインパーキング(P.ZONE®)』

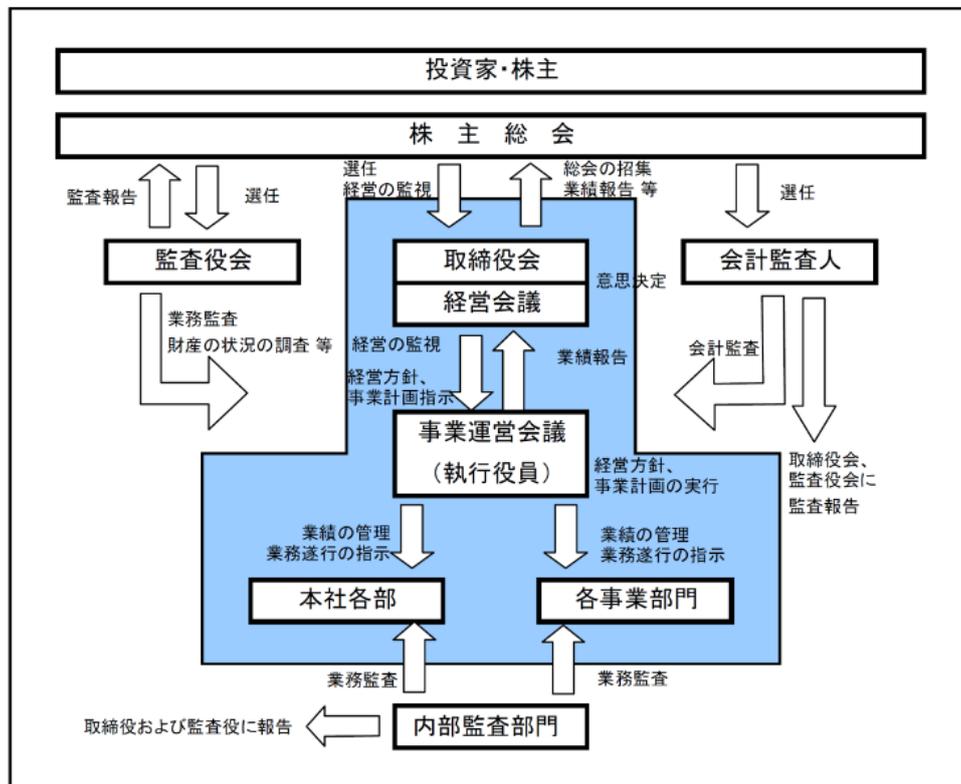


『立体駐車装置(レントウパズル®HS40)』

4 コーポレートガバナンス

当社グループは、環境の変化に対応して経営方針・経営戦略の迅速な意思決定を行うとともに、その方針や戦略を確実に、スピーディーかつタイムリーに実行するための体制を強化し、企業価値の拡大をはかることを主眼とした経営を行っております。また、意思決定から執行までの過程において、法令やルールの順守を徹底するため、監査・監督機能を強化しています。企業倫理の高揚をはかりながら、健全な企業活動を通じ、一企業として、また社会の一員としての社会的責任を自覚して、株主、顧客、取引先、地域社会、従業員などの様々な関係者との良好な関係を築いていくことを、経営上の重要な課題として認識しております。尚、コーポレートガバナンスの整備状況及び体制については、「コーポレートガバナンス報告書」(http://www.kyokuto.com/ir/pdf/20160629_7226_gai.pdf)に記載しています。

【当社の機関および内部統制システム(模式図)】



5

人権/労働慣行

1. 従業員に対する基本姿勢

当社に対する社会からの信頼は、従業員一人ひとりの日々の活動の上に築かれると考えています。当社では、従業員が右記の6つの項目を目指すことで、一市民、一企業人として人間的に成長することを期待しています。

- 法令に従い行動する。
- 社会人、企業人としての自覚を持つ。
- お客様の満足度向上をはかる。
- 自らが行動し、自らが創り出す。
- 相手の立場にたって考え、行動する。
- 会社の発展と個人の幸福の一致をはかる。

『極東開発工業ビジネス行動規範』より一部抜粋

コンプライアンスに向けた取り組み

健全な企業活動とは、法令をはじめ社会の規範、それに当社で定めた規定などのルールに則った行動を従業員一人ひとりが行うことによって達成されると考えています。社会人として、また当社従業員として、守るべきルールを常に忘れないよう、社内ネットワークを利用した独自プログラムによる教育や、社内報への関連記事の掲載などを通して、コンプライアンスに対する意識の向上に努めています。

また、社内規程として定める「倫理相談窓口に関する規定」は、コンプライアンス違反の予防および早期発見を促すだけでなく、公益通報者保護法に基づいた通報者に対する不利益行為を禁止しています。

特に、ハラスメント全般については、主要な事業所に相談窓口を設けて、身近に相談できる体制を整えています。

【セクハラ・パワハラ相談員】

会社選出	労働組合選出
14名	5名



2. 働きやすい職場を目指して

多様性に対する取り組み

価値観や考え方が異なる社員が協力し、仕事を進めていくためには、互いの相違点を尊重しあうことが大切です。相違点を認めることで、相互理解が生まれ、進歩、発展が生まれます。当社では、相互理解の前提となる基本的な人権を常に尊重します。

- 一切の差別を排除する。
- 個人のプライバシーを保護する。

『極東開発工業ビジネス行動規範』より一部抜粋

女性の活躍を促進

当社の女性従業員は、2016年3月現在で88名（全従業員比率9%）となっています。この状況は低い水準であると認識しており、将来の発展のためにはさまざまな課題を克服していく必要があると考えています。

➤ 当社の課題

女性の応募者が少なく、従業員に占める女性従業員の比率が低い
女性従業員のキャリア志向の把握や系統的な育成計画の整備が必要

目標1：新卒採用者に占める女性の割合を、3年平均13%以上を目指して採用活動を行う。
(2015年度以前3年平均実績：9.4%)

年度	契約社員	正社員	派遣	総計
2011	6	3(22)	10	19
2012	3	5(39)	17	25
2013	4	4(46)	21	29
2014	4	6(52)	18	28
2015	5	2(51)	20	27
総計	22	20(210)	86	128

カッコ内は男性を含めた採用者の数

➤ 今後の取り組み

女性の採用に向けた積極的な採用活動と女性の配属先の拡大

- 2016年度～ 女子学生向けの会社説明会・工場見学会を開催
女性従業員による座談会やホームページを通じた女子学生向け情報発信
OGリクルーターの導入
- 2017年度～ 配属職場の拡大を検討

【女性従業員の雇用形態別の割合(2015年度実績)】

雇用区分	割合
正規社員	6.7%
非正規社員	23.0%

目標2：女性従業員のキャリア意識の形成とライフイベントに対するキャリア支援の取り組み

➤ 今後の取り組み

女性活躍推進の取り組みの浸透による意識改革と制度支援の取り組み

2016年度～ 女性活躍推進の取り組みのPRと女性活躍に向けた課題を管理職へ展開

2017年度～ 女性従業員を対象としたキャリアデザイン研修の実施

管理職向けダイバーシティ研修の検討・実施

2018年度～ 出産、配偶者の転勤等のライフイベントの影響を受け易い女性のキャリア

形成を後押しするための支援制度の検討と導入

3. ワークライフバランスの推進

当社では、育児や介護に関する休暇制度の整備や有給休暇の取得を推進することで、家庭と仕事の両立を支援し、いきいきと働くことができる職場環境の整備に取り組んでいます。また、本社を中心に一部の部署ではフレックスタイム制を導入しています。

【育児休暇・産後休暇・介護休暇の取得状況】

種類	人数	延べ日数
育児休暇	5	460
産後休暇	4	199
介護休業	1	39

有給休暇取得状況

平均 9.7日/人



目標1：社員が子育てしやすい職場環境の整備

➤ 今後に向けた対策

女性のキャリア形成を支援する研修の導入を検討する

出産や子育てのため退職した社員を再雇用する制度などの導入を検討する

地域社員制度の運用と周知を図る

育児支援の諸制度を利用する社員の利便性を図れるよう、システム等を整備する

目標2：計画期間内の育児休業の取得状況を以下の水準とする

男性社員：計画期間内に1名以上育児休業を取得

女性社員：計画期間内の育児休業取得率が70%以上

➤ 今後に向けた対策

社内広報ツールを用いて、育児支援の諸制度の周知、啓発をおこなう



目標3：若年者に対するインターンシップ等の就業体験機会の提供

➤ 今後に向けた対策

各地域の大学や高等専門学校等と連携し、インターンシップの受入れをおこなう

障がい者の自立を支援

障がいを持った方たちにも活躍していただくために、当社では地域を限定せずに採用活動を行っています。2015年度においては28名（パートタイマー含む）で、割合は4.0%となっています。今後も引き続き採用を行っていきます。

4. 安全な職場環境づくり

元気に出社し元気に退社する。そんな「あたりまえ」のことをあたりまえに続けていくために、当社はさまざまな安全に対する取り組みを行っています。

労働安全衛生方針

「安全は全てに優先する」という方針のもと、全従業員が自主的に安全衛生活動に取り組み、安全衛生水準の向上を図ります。健康の保持増進及び快適な職場環境の形成を積極的に推進し、働きがいのある職場づくりを目指します。

1. 「5S」（整理・整頓・清掃・清潔・習慣）を推進し、「安全意識の向上」を図ります。
2. 「指差し呼称」を徹底し、安全の先取りを行い、労働災害の未然防止に努めます。
3. リスクアセスメントの実施により、職場の潜在的危険要因を発見し、「危険ゼロ」を目指します。
4. 心と体の健康づくりに向けた環境整備を行い、健康で働きやすい職場づくりを推進します。

【労災発生件数】

不休災害	休業災害
20件	5件

5. 従業員の成長に向けた取り組み

(1) 人事制度

	管理職クラス		一般クラス	
	マネジメント職群	プロフェッショナル職群	ゼネラル職群	トレーニー職群
主な役割	経営幹部それらを目指す者。経営管理に必要な知識を高めるとともに、部下を活用することにより目標を達成し、会社に貢献できる社員。	専門分野でのきわめて高い技術・知識・経験を有し、これらを発揮するとともにその技術を伝承することで会社に貢献できる社員。	将来マネジメントやプロフェッショナルを目指す社員それぞれの職務に必要な能力を高めるとともに、その能力を発揮することにより、生産性を高め成果をあげる社員。	それぞれの職務に必要な能力を高めるとともに、一定の指示に基づき業務を完遂できる社員。
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期初に上司との面談により目標を設定します。期中にも面談を行い、進捗状況の確認と必要に応じて目標の見直しを行います。期末には目標の達成状況について面談を行います。 ・ 業績への貢献、潜在能力の向上、取り組み姿勢(人間力)、これらについて評価します。 			
ローテーション	幅広い知識や経験を習得するために、ローテーションを積極的に行っています。			
等級	5段階	5段階	4段階	2段階
給与	基準内賃金として、資格給、役職手当、公的資格手当、住宅補助手当を支給。また、基準外賃金として営業外勤手当、時間外手当、通勤手当などを支給。			
賞与	会社の業績および個人の業績評価に基づいて決定。		労使による団体交渉によって平均賞与額を決定。個人支給額については、業績評価に基づき決定。	
退職金	等級・勤続年数に応じたポイント制により決定。勤続年数のポイントの一部は、個人で運用できる年金制度を導入。			

(2)教育研修

研修項目		概要	対象者
階層別研修	評価者研修	<狙い>人事制度の確認と評価基準の確認 評価者訓練（人事制度と評価実施要領、ケーススタディ）	新任管理職
	新任管理職研修	<狙い>管理職としての最低必要限の知識をマスターする ①評価者訓練（人事制度と評価実施要領、ケーススタディ） ②マネジメント ③部下育成・コーチング	新任管理職
	管理職養成研修	<狙い>管理職としての能力を開発する ①問題解決 ②計数管理（PL, BS, CFの基礎） ③労働基準法（労務管理における法律）	管理職 次期候補者
	リーダー研修	<狙い>監督職候補としての集団統率、人材育成をマスターする ①リーダーシップ ②コミュニケーション（アサーティブコミュニケーション） ③ゼネラル職として求められる役割の認識	ゼネラル資格 次期候補者
	フォローアップ研修	<狙い>入社後のマンネリ打破と定着率向上 ①入社後の振り返りと今後の目標設定 ②仕事や職場の悩みのカウンセリングとともに自己の役割を考察する	入社3年目
	2年目研修	<狙い>社会人基礎力の養成と強み、弱みの自己評価と他者評価の把握 体験学習を通じて、ビジネスの仮想体験をし、気づきから行動変容を促し、社会人基礎力を養成する。	入社2年目
	新入社員研修	<狙い>会社の諸規則の理解、体験学習を通して仕事を理解する ①就業規則・人事制度（法令） ②体験学習を通して仕事を理解する ③社会人としての意識改革	新入社員 （学卒者）
キャリア研修	キャリア開発研修	<狙い>今後5年のキャリアを様々な角度から分析し啓発目標を設定する ①自己の長所・短所の分析 ②中長期でのキャリア目標設定と啓発目標の設定（価値創造をプロモート）	30歳到達者



【2年目研修の風景①】



【2年目研修の風景②】

(3) 各種支援制度

当社の技術や技能など、専門性の高いものについては高く評価するとともに、その育成についても制度を整え支援しています。

- ・技監・マイスター・シニアマネージャー制度

当社の技術や技能の発展に向けて、高い専門性を有する従業員を対象に選任しています。

- ・資格奨励金制度

業務に関連のある公的資格など 100 種類を対象に奨励金を支給し、従業員のレベルアップを促進しています。

- ・語学奨励金制度

海外でも通用する人材を育成するために、英語、中国語を対象に奨励金を支給し、グローバル人材の育成を行っています。

- ・社長表彰制度

業務改善や新製品の開発など会社業績に多大な貢献をした従業員（または、チーム）に対して、毎年の創立記念式典にて表彰を行っています。

【2015 年度社長表彰】

チーム賞	1 チーム
功績賞	2 名
功労賞	33 名
発明大賞	1 名
発明奨励賞	2 件 5 名

【チーム賞 名古屋工場 大型ダンプチーム】



6. 労働組合を通じたの労使関係づくり

当社では、極東開発労働組合との対話の場を定期的に設け、経営状況の説明をはじめ職場の安全衛生や制度など各種労働条件の改善に向けた取り組みを行っています。また、文化体育行事への参加やクラブ活動への支援も行っています。

6

環境への取り組み

当社は生産に必要な資源やエネルギーはもちろんのこと、さまざまな点で自然から多大なる恩恵を受けて事業活動を行っています。これを念頭に、地球環境をより良い状態で次代に引き継ぐための活動を、あらゆる事業の場面で自主的かつ積極的に行います。

私たち人類にとって、地球環境はかけがえのないものです。当社は、環境を守ることが企業の責務であり、経営の重要課題と考えます。

基本姿勢

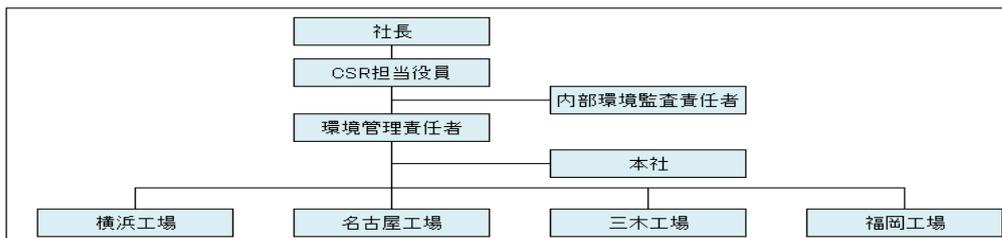
1. 環境問題に積極的に取り組み循環型社会を追求する。
2. 地球環境の保全に役立つ技術開発を指向する。
3. 環境関連法規および同意する要求事項ならびに自ら設定した基準値を順守することで公害防止、省エネルギーに配慮する。
4. 製品から発生する廃棄物を抑制し、部品等の再利用および再資源化に注力する。
5. 良好な環境の維持向上のために環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスの継続的改善に努める。

「環境への取り組みに関する基本姿勢」より

1. 推進体制

当社は、本社事務所をはじめ4つのサイトで ISO14001 の認証を取得し、各サイトとも環境保全に積極的に取り組んでいます。2006年4月に設立したCSR室は全社の事務局的な役割を担い、各サイトと連携してCSR担当役員の指導の下、環境マネジメントシステムを推進しています。なお、2015年9月のISO14001規格改訂を機に2016年4月より4サイトをひとつにまとめて統合運用を開始し、環境保全活動を進めています。

【環境組織図】



2. 環境経営基本計画

環境経営度を更に向上させ、企業の社会的責任を全うすべく、次のとおり環境経営基本計画を掲げ、環境保全活動を推進しています。

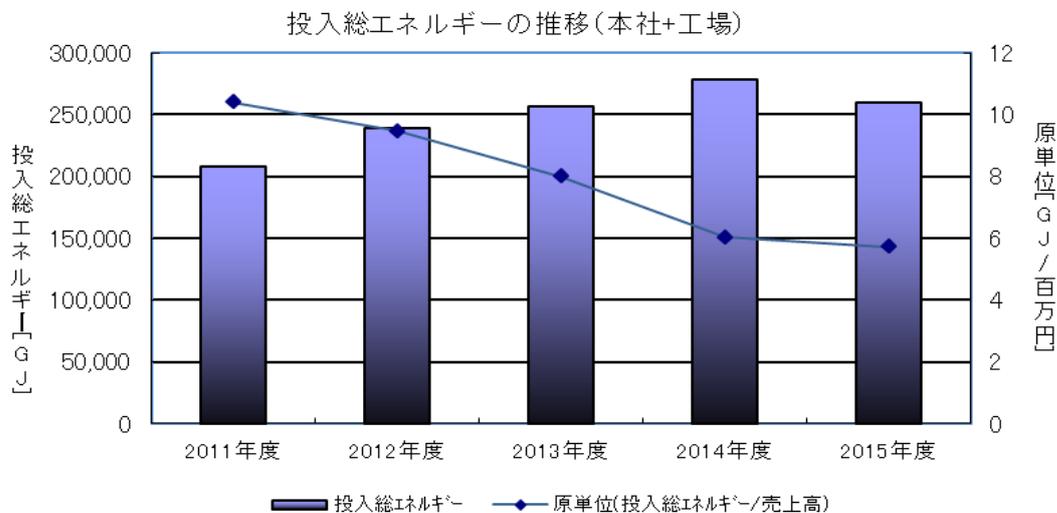
区分	目 標		2015年度実績	評価
地球温暖化	中期目標	CO ₂ 排出量：2020年度に2005年度比15%削減	2005年度比15%削減	○
	2015年度目標	CO ₂ 排出量：原単位で2014年度比1%削減	2014年度比5%削減	○
資源循環	特装车生産拠点でゼロエミッションを達成 (廃棄物最終埋立処分量0.5%未満)		0.4%	○
大気汚染	VOCの排出抑制に努め、削減率を維持		2000年度比44%削減	○

3. 主な活動紹介

サイト	主な取り組み内容
全社	・環境月間活動 ・クールビズ(ノーネクタイ・ノー上着)/ウォームビズ
各サイト	・環境負荷の少ない設備の導入(照明のLED化) ・誤出荷・不良品の再発防止 ・原価低減を含めた新基準製品の開発 ・環境配慮製品の開発 ・電子化による工数低減と可視化 ・クレーム件数の低減 ・電力削減活動の推進

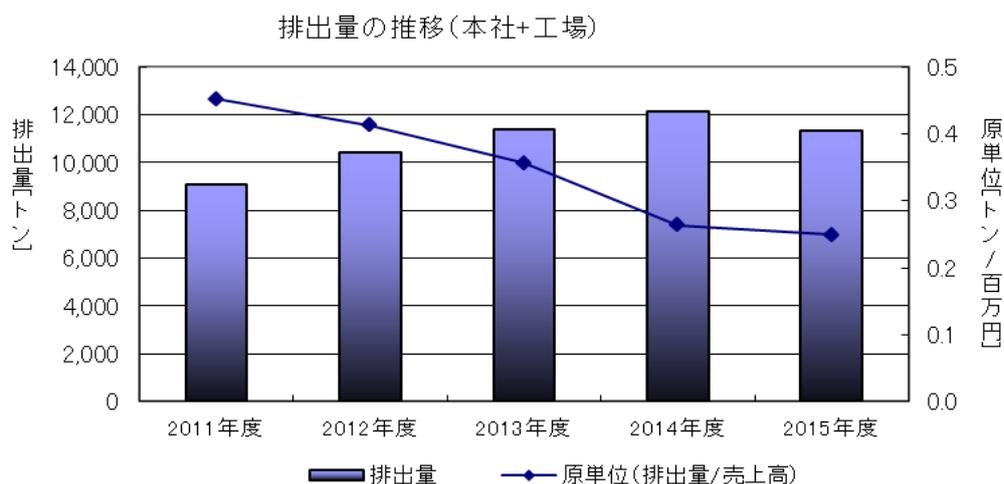
4. 低炭素社会へ向けての取り組み

当社は、自らが定める環境行動基準に従い、循環型社会の実現に向けての公害防止活動や、省エネルギー推進活動を行っています。投入エネルギーにおいて、電力や化石燃料をはじめとしたエネルギー全般について、ムダのない効率的な運用を心掛けています。



温室効果ガス排出量の監視

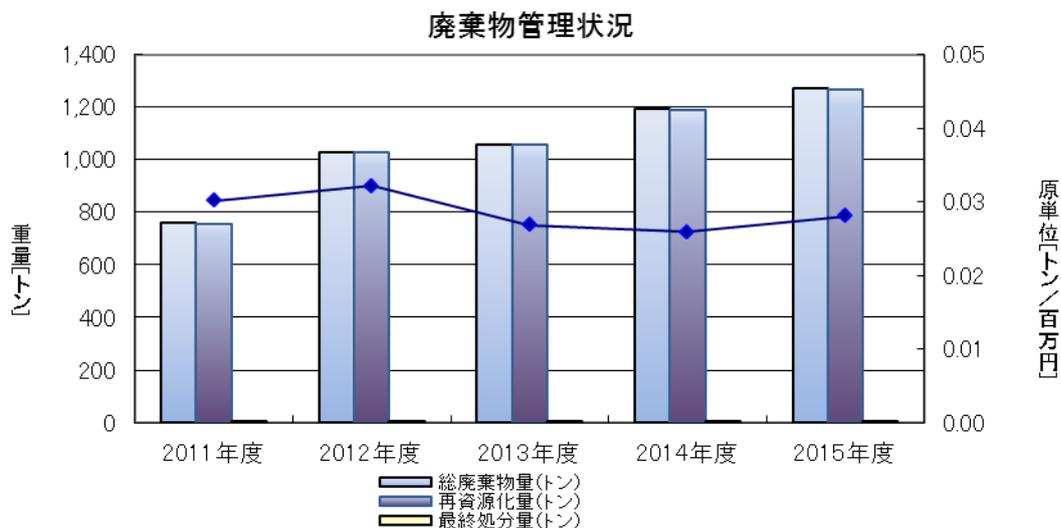
省エネ設備の導入や運転効率の改善などによってエネルギーの効率的な利用は進んでいます。



5. 廃棄物の削減とリサイクルの推進

事業活動によって排出される一般廃棄物及び産業廃棄物は、分別を徹底するなど循環型社会の実現に向けて継続して廃棄物排出量削減に取り組んでいます。

2011年度から継続してゼロエミッション(廃棄物総発生量に対する最終埋立処分の割合が0.5%未満)を達成しています。



6. 事業活動と環境負荷

2015年度の4工場(横浜・名古屋・三木・福岡)における環境負荷実績は下記の通りです。

INPUT		OUTPUT	
エネルギー使用量		大気への排出	
電力	18,387千kWh	CO ₂ 排出量	11,177t-CO ₂
ガンolin	38kL	水域への排出	
軽油	417kL	総排出量	132千㎡
灯油	31kL	廃棄物の排出	
LPG	306t	廃棄物発生量	1,255t
都市ガス	923千㎡	再資源化量	1,250t
水資源使用量		化学物質	
総投入量	160千㎡	排出量	111t
総物質投入量		移動量	13t
金属		※PRTR届出物質を対象	
鉄	16,791t		
ステンレス	609t		
アルミニウム	695t		
その他非鉄金属	-		
化学物質			
取扱量	124t		

7. メガソーラー発電

福岡工場敷地の一部、旧東北(八戸)工場敷地の一部、日本トレクス音羽工場(豊川市)の一部を有効活用し、メガソーラー発電を行っています。これを通じてクリーンエネルギー導入の積極的な推進、更なる循環型社会の形成を目指してまいります。

	発電能力	2015年度発電量
福岡	1,569kW	1,972,383kWh
八戸	1,802kW	2,180,190kWh
音羽	427kW	530,875kWh



『福岡メガソーラー発電所』



『八戸メガソーラー発電所全景』

8. 環境会計

環境保全への取り組みを効率的にかつ効果的に推進することを目的として、事業活動における環境保全のためのコストおよび効果を把握し、2009年度より環境省発行の「環境会計ガイドライン」に沿って環境コストと環境効果を集計しています。

集計範囲：本社（環境事業部尼崎事業所を含む）および4工場（横浜、名古屋、三木、福岡）

対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

【環境保全コスト】

(単位:百万円)

コスト分類	主な取り組みの内容	2014年度実績		2015年度実績		前年比増減	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
(1) 事業エリア内コスト		33	62	108	57	75	5
①公害防止コスト	公害防止設備、水質汚濁防止などのコスト	0	16	0	15	0	△1
②地球環境保全コスト	省エネルギー設備のコスト	33	0	108	0	75	0
③資源循環コスト	廃棄物の分別回収、処理などのコスト	0	46	0	42	0	△4
(2) 上・下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	0	0	0	0	0
(3) 管理活動コスト	ISO関連費用、教育	0	3	0	3	0	0
(5) 社会活動コスト	自然保護、緑化、環境団体への寄付、支援	0	0	0	4	0	4
(6) 環境損傷対応コスト	環境汚染の修復費用	0	0	0	0	0	0
	合 計	33	65	108	64	75	△1

【経済効果】

(単位:百万円)

分類	項 目	効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	50
費用節減*	エネルギー費用の削減	69
	廃棄物処理費用の削減	1
	水購入料削減	1

※対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出

【環境保全効果 物量】

分類		2014年度	2015年度	前年度比
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量 (GJ)	277,923	259,693	△18,230
	水資源投入量 (千m ³)	166	165	△1
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	12,169	11,326	△843
	廃棄物総発生量 (t)	1,191	1,271	80
	廃棄物最終処分量 (t)	5	5	0

9. 環境月間

環境講演会

当社では、6月を「環境月間」と定め、環境にちなんださまざまなイベントを開催しています。その一環として、外部講師による講演会を企画し、従業員をはじめ社内で働く多くの方々に環境に関する最新情報や省エネ活動の事例などを紹介し環境意識の高揚を図っています。今回はアマタ株式会社様より講師をお招きし、CSRの言葉の意味からはじまり、CSRの生まれた背景やISO26000などのCSR活動が企業にとって如何に重要であるかを初心者にも理解しやすいように講演いただきました。



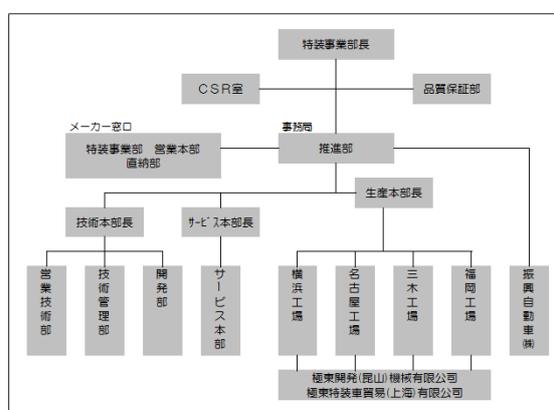
環境標語

環境意識の向上を目的に、環境月間にちなんで従業員から環境標語及び環境提案を募集し、今回は環境標語 157 件、環境提案 14 件、合計 171 件の応募があり、その中から優秀賞として環境標語 12 作品が選ばれました。

- ☘ 節電は1人1人の意識から
- ☘ 『電気代 あがる今こそ 節電を!』
- ☘ エコ意識 一人が変われば 周囲(みな)変わる
- ☘ きれいだね そうよばれたい 極東開発
- ☘ 平準化、一斉退社で節電効果!
- ☘ みんなで指差呼称! 「環境によし!」
- ☘ こだわりの 環境製品取り揃え 世界へ羽ばたく 極東開発
- ☘ 「もったいない!」 そんなあなたは ECO 戦士
- ☘ いつ見ても ごみ一つない e-co 場(い-こうじょう)
- ☘ 業務効率 ノーザンギョウで エコライフ
- ☘ エコ設計 きっと未来に 成果あり
- ☘ エゴとエコ 意識ひとつで 変わる未来

10. SOCフリー化に向けた取り組み

当社では欧州廃車指令(ELV 指令：End of Life Vehicle)、業界団体である一般社団法人日本自動車車体工業会の自主取り組み基準、およびお客様からの要求を踏まえ、2007 年末には特装車の標準部品において環境負荷 4 物質(SOC: カドミウム・鉛・水銀・六価クロム)のフリー化を達成いたしました。現在は、この4物質に加え、難燃剤等を加えた計 10 物質を対象に、SOC フリー化の維持・管理に努めています。また、今年度も特装車に対するお客様からの新たな化学物質管理要求に適切に対応していくため、特装事業部長をトップとする化学物質管理体制を敷き、化学物質の管理強化に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、サプライヤーからご提示を受ける SOC フリーエビデンスの管理徹底、および生産ライン内での SOC フリー達成看板の提示等を実施しています。



11. 製品への明示

SOC フリーを宣言できる製品については、製品カタログやパンフレットに表示を行い、ユーザーのみなさまにお知らせしています。

また、一般社団法人 日本自動車車体工業会が制定する 3R 判断基準ガイドラインに基づく当社基準を満たす製品については、環境基準適合ラベルの貼付を推進しています。

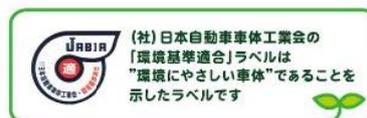
なお、2011 年度より、より環境にやさしい架装物をめざし、「新環境適合ラベル（通称：ゴールドラベル）」が追加されました。

【2015 年度 ゴールドラベル取得機種】

2015年12月	一台積車両運搬車フラトップ® JN02-46、JN02-47、JN04-46、JN04-47
2015年11月	脱着装置付コンテナ運搬車ハイパーシング・フックロール® JM04-55



『フラトップ® Zero II』



『製品カタログやパンフレットへの表示』



カドミウム・鉛・水銀 及び 六価クロムの削減を実現した製品です。

『適合製品を示すステッカー』

7

公正な事業慣行

購買の基本方針

1. 安定供給

購買担当者は社内の関連部署とそれぞれ連携を保ち、資材を適正な価格で、適時安定的に購買を行っています。また、資材の運用計画を立て、資材の円滑な供給と効率を上げ且つ不良資材の発生防止に努めています。

2. 環境配慮

環境負荷物質(カドミウム、鉛、水銀、六価クロムの4物質等)を含まない資材の購入を順守しています。

3. 原価低減

資材購買の価格低減のみならず、社内工数、経費等を含む総合的な節減にも留意しています。

4. 法の遵守

下請法に基づいて、公正な取引を行っています。

「購買管理規定」より一部抜粋

指定修理工場への講習会実施

当社は、新製品だけでなく従来の製品についても、指定修理工場に対して、製品操作説明および技術講習会を実施しています。

2016年1月18日・19日には、横浜工場にて4トンスイング式脱着ボデー車「ハイパースイング・フックロール[®]講習会」を、2016年2月12日には、名古屋工場にて同様の講習会を、2016年2月25日・26日には、大阪サービスセンターにて技術の継承を目的とする「コンクリートポンプ実技講習会」を開催しました。



『ハイパースイング・フックロール[®]講習会』



『コンクリートポンプ実技講習会』

8

消費者課題

基本姿勢

極東開発工業は、たゆまぬ研究開発と日々の生産活動を通じて、新しい製品を創り出し、人々の生活の質の向上と文化の進展に寄与することをめざします。

また、生産者として真に人びとの役に立つような優れた製品と質の高いサービスを提供するとともに、これらを適正な価格で、必要な量を供給し、お客様の満足と信頼を得ることをめざします。さらに、お客様に安心して製品を使用していただくため、事業活動のすべての面で製品の安全性の確保に努めます。

極東開発工業ビジネス規範『ものづくりの基本姿勢』より一部抜粋

1. 情報開示

当社の製品におけるリコールおよびサービスキャンペーンなどの重大な不具合に関しては、速やかに所轄官庁に報告する体制を整備しています。また、それと合わせて、できるだけ早期にお客様にその情報が伝わるよう、ホームページやダイレクトメールでお知らせしています。

【2015年度リコールおよびサービスキャンペーン届出一覧】

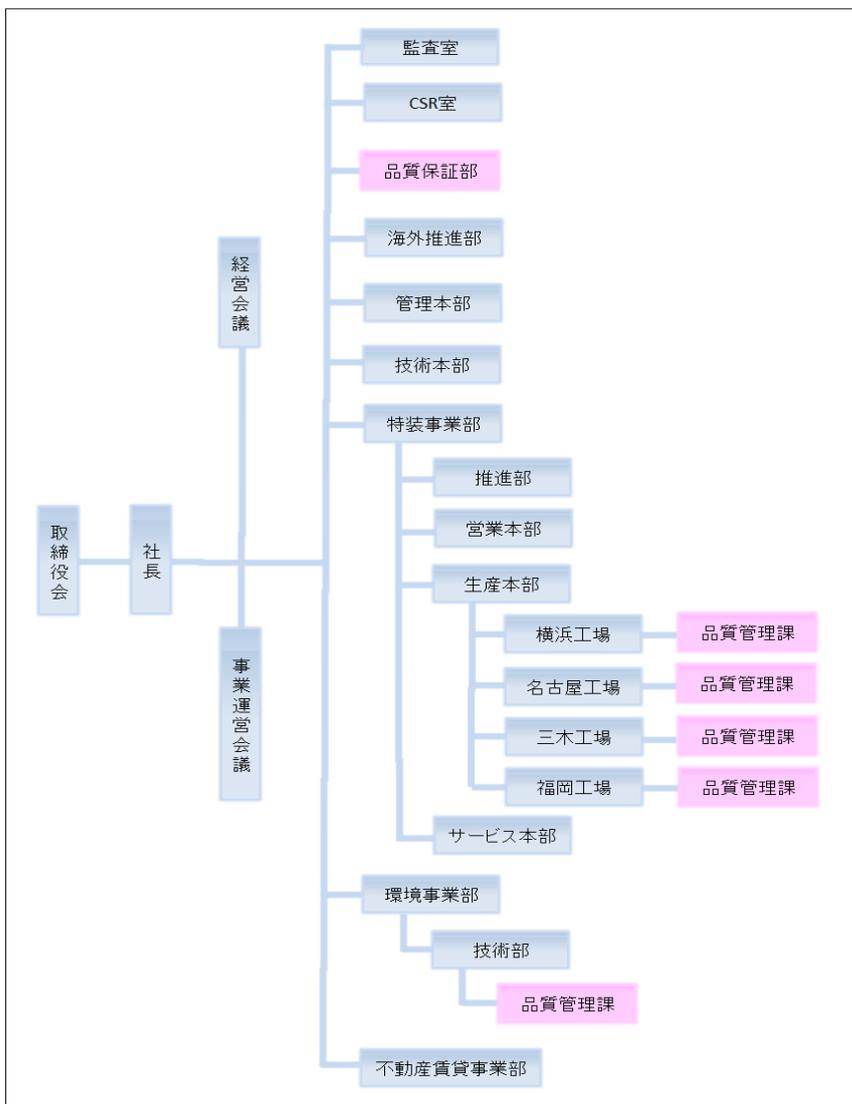
届出日	件名	対象車種・機種	※届出
2015年4月21日	ダンプ操作用のコントロールケーブルに関する不具合	大型ダンプ	◎
2015年5月15日	水ポンプ用エンジンに関する不具合	散水車	◎
2015年5月19日	ソレノイドバルブに関する不具合	パワーゲート®G型	○
2015年6月2日	製品構造に関する不具合	ごみ収集車 「バックマン®チルト」	○
2015年6月26日	バッテリー充電器に関する不具合	電動式ごみ収集車 「eバックカー®」	○
2015年7月17日	トレーリングアームに関する点検整備不十分による不具合	アルミタンクセミトレーラ	○
2015年10月7日	作業用装置油圧ポンプに関する不具合	1台積車輻運搬車 「フラトップ®Zero」	◎
2016年2月9日	ブームとブーム関連部品に関する不具合	コンクリートポンプ車	○

※サービスキャンペーンを○、リコールを◎で表記

2. 品質保証体制

当社では、事業所毎に品質管理課を設置し、各拠点において品質管理体制を構築しています。また、本
社に品質保証部を組織して全社的な品質管理体制を維持するとともに、より良い製品をつくるための指
導をおこなっています。

【品質保証体制組織図】



お客様インタビュー

ごみ問題の取り組みへのサポート



安田産業株式会社様は、産業廃棄物の処理をメインに、ペットボトルの再商品化ライン、有機肥料製造ラインなどのリサイクル事業を展開しています。リサイクル事業に関しては、「3R」の言葉が社会に定着する前から手掛けています。今回、同社 地球環境室の安田様にお話を伺いました。

<循環型社会を目指して>

地球の限りある資源・エネルギーを維持しながら社会が持続的に発達していくためには、循環型社会の実現が必須です。安田産業グループは、その実現に向け、事業を通して「3R」に取り組んでいます。

その一つに「ごみの減量化」があります。家庭や事務所から排出されるごみの量を知ってもらうことが、環境に対する意識を高めるための第一歩です。自分たちが出すごみの量を数値で見ると、「あれ、なんで今回は多いんだ?」「今日は思いのほか少ないな」というような気づき生まれ、そこから「ムダな消費をしてはいけない」という意識が芽生えます。極東開発工業のスケールパッカー[®]は、ごみの量を瞬時に計測することができ、非常に役立っています。今後も、循環型社会の推進に向けて、共に取組んでいきたいと考えています。



安田産業株式会社
地球環境室 安田様

【ごみの減量化への取り組み】



9

コミュニティへの参画

1. 地域への取り組み

当社は、地域と協力して相互発展すること・共生することを基本原則として、積極的なコミュニケーション活動やさまざまな取り組みを実施しています。

地域清掃

地域と協力して街の美化に努めます

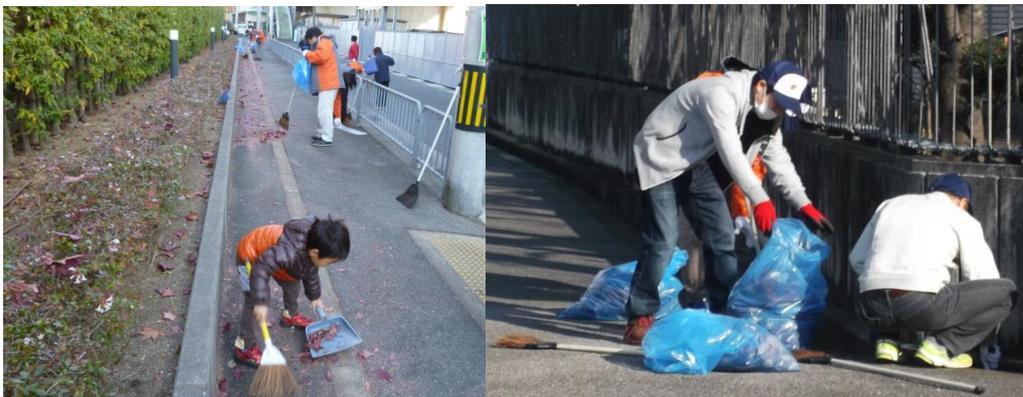
当社では、拠点がある自治体が主催している地域一斉清掃活動に従業員が参加し、地域住民とのコミュニケーションの向上に努めています。

名古屋工場では、大山川河川の清掃にも積極的に参加し、生物多様性の保護に努めています。



『大山川クリーン清掃活動』

また本社地区では、毎年6月と12月に西宮市主催の「わがまちクリーン大作戦」に参加し、市民の皆さんと一緒にまちの美化活動を行っています。



『西宮市わがまちクリーン大作戦』

赤い羽根募金

赤い羽根の共同募金事業は、民間の運動として戦後直後に市民主体の取り組みとして開始され、現在は様々な地域福祉の課題解決に取り組まれています。当社では、より住みやすい街への目標に向けて募金を実施しています。

大和市民まつり

当社横浜工場がある神奈川県大和市の引地台公園では、毎年「大和市民まつり」が開催されます。当社も地域の一員として、当イベントを支援しています。

また、2015年度においては、大和市に住む従業員も、市民の一員として警備を務めました。

次年度以降も、地元・地域の振興に努めていきます。



神奈川大和阿波おどり

神奈川県大和市では、大和駅周辺商店街で毎年7月に「神奈川大和阿波おどり」が開催されます。地域との交流、地域への貢献に向けて当社も当イベントを支援しています。阿波おどりは市内企業、地元自治会等が参加するほか、全国からも踊り手が集まる大和市内における最大級のイベントです。

当社従業員も団体に所属して地域の活性化に取り組んでいます。



『阿波おどり風景』

阿波踊りは4年前から始めました。
地元の方と一緒に汗を流しながら地域を盛り上げることができ、まだまだ未熟ですが楽しみながら踊っています。来年もぜひ参加していきたいと思います！

横浜工場技術部 船橋 文都

2. 社会貢献

献血への取り組み

当社では、現代の医療を支える献血に協力しています。当社においては、献血貢献企業に選ばれ「第45回 西宮市献血推進大会」にて代表で表彰されました（表彰団体数は6団体）。



『西宮市長からの表彰』

地元消防大会に出場

地域防災への一環として、本社・横浜工場では自治体主催の消防大会に毎年参加しています。屋内消火栓の操作方法や水の放出方法を学び、有事の際に冷静かつ素早く対処する術を習得します。大会では火事と見立てたポールを倒すまでにかかる時間で順位づけされます。



『横浜工場 消防チーム』



『本社 消防チーム』

西宮市主催 環境計画評価会議に参画

市民・事業者・専門家・行政で構成される西宮市の環境計画評価会議は、環境に関する市の施策・事業全般について評価を行います。当社からも、従業員がメンバーとして当会議に参加し、西宮市の環境マネジメントシステムが有効に機能しているかを外部の視点で監査し、透明性ある行政への支援を行っています。

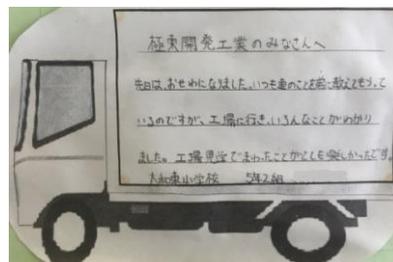


『評価会議風景』

工場見学の開催

当社では、モノづくりへの関心と、地域産業のことを知ってもらうために、近隣の小学校の訪問や、地域の方々を対象に工場見学会を開催しています。

横浜工場の見学に来た小学生の皆さんからは、いつも当社へたくさんのお手紙をいただいております。「はたらく車を知ることができて良かった」という意見を多くいただいております。今後も、工場見学を通して地域への貢献を続けていきます。



『見学会風景』



工場見学ではたくさんの小学生に楽しんで特装車のことを知ってもらえるので、わたしたちも嬉しいです。

「将来、当社に入りたい！」とってくれるような楽しくてわかりやすい説明を今後もしていきたいと思います。

横浜工場管理課 大田 智子

「はたらくくるま大集合！」に出展

兵庫県 東条湖おもちゃ王国では、兵庫県加東市観光協会主催の「はたらくくるま大集合！」のイベントが開催されます。小さな子どもたちに特装車について親しんでもらおうと、当社も毎年出展しております（2015年度で9回目の出展となりました）。2015年度は10月17日、18日に開催され、2日間で約25,000の方が来場されました。



『展示会の様子』



『積込作業体験』



展示ブースでは、運転席に乗っての記念撮影や、操作体験を通して、普段触れることのない製品の仕組みを楽しみながら皆様に知っていただきました。

経営企画部 田中 悠太郎

こまき産業フェスタへボランティア活動

愛知県小牧市では、小牧市内で事業活動をしている企業や団体について、広く市民に知ってもらうことを目的として、「こまき産業フェスタ」が開催されています。当社名古屋工場からも運営スタッフを派遣し、地域の活性化に協力しました。



このイベントでは、小牧市に拠点がある企業で働く方々がたくさん来られます。地域の人や他社の社員さんと楽しく交流しながらイベントのお手伝いができました！

環境事業部営業技術課
貞国 友美子

市民の安全を守るために

神奈川県立大和南高等学校の通学路向けに LED 灯を増設

大和市上和田にある東部パーツセンターは、神奈川県立大和南高等学校に隣接しています。通学路には街灯がなく、学生にとっては決して安心・安全とは言えない状況でした。学校関係の方をはじめ、大和市民の安心・安全を守るため、同じく大和市に拠点を構える横浜工場と共に、市道向きに LED 灯を増設し、通学路の保安を確保しました（当社の対応に対して、同高校の修了式にて表彰されました）。



『LED を電柱に設置』



『神奈川県立大和南高等学校からの表彰』

10

統計資料

■ 2015年度業績ハイライト



■ セグメント別売上構成比率

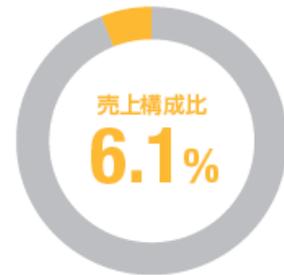
『特装車事業』



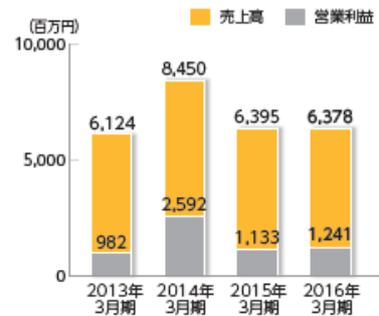
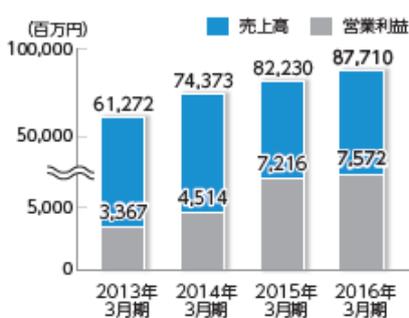
『環境事業』



『不動産賃貸事業』



■ セグメント別売上高



■ 国内普通トラック登録台数の推移

